大阪の教育

大阪教師会

〒596-0814
大阪府岸和田市岡山町
443-13
電話　090（7363）9544
振替口座　00910-9-1433

自己肯定感を高める授業

コロナ禍で子どもも教師も…

コロナ禍になって二年が過ぎようとしている。その間臨時休校、家庭学習等で、学校は学力を低下させないようにと、プリント学習・教科専科制の導入、更にタブレット活用で授業を行っている。

コロナ禍での授業は、なるべくしゃべらない授業が主流になっている。教師の提案した学習課題で授業が進行している。いわゆる、原理注入主義・知識注入主義的な授業がほぼ主流になっている。文科省がいう「主体的・対話的で深い学び」にはほど遠くなっているといえるであろう。従って子ども達は発言ができないで黙って教師の正解をノートしたり覚えたりの授業が毎日毎時間進行するためストレスが溜まり、教室が騒がしくなったり、トイレに行く、ぶらりと教室から出て行くなどの児童・生徒が増えている。

それらの根本的な原因がコロナ禍にあると思うが、教師は、子どもが悪い、しつけができてない、コロナ禍であるから仕方ない、学級経営が不十分であると考えているようでもある。普通の状態でも今まで述べたような姿はしばしば見られている現象でもある。

ここで教師は冷静に考えてみることが大事ではないだろうか。その一つが授業の進め方や授業中での児童・生徒間の対話のあり方、さらには教師との関係のあり方について研究が必要であろう。

私自身も新任当時は、教育とは教科書に書いてある知識を教える、覚えさせることに比重をかけ過ぎた時、子どもから「先生、授業がおもしろくない」と言われた。

私自身も過去には、授業とは先生が言われることはしっかり記憶しなければならないものであると思い、記憶することに一生懸命努力したものである。従って楽しくない授業でにあっても児童・生徒は黙って教師の説明、解説は聞かなければならないと考え実践していた。

およそ二十数年前の児童・生徒は、分からなくても教師の解説話は聞いたものであったが今は大きく違ってきている。

その大きな原因は、第二の学校、即ち学習塾・インターネット学習・スポーツクラブ等が沢山あって、そこへ児童・生徒は通って学習している。それら第二の学校では、地域に合わせた教科書を研究して授業を実施している。教材の進捗状況が学校より早く進めているため、子ども達は学校で学習する時はすでに学習内容を周知しているので、学校での授業内容に新鮮味がないので退屈する。その結果私語、答えを知っているため勝手に発言、うろつき行動をして担任を困らす。子どもの心情を考えると同情できる面も理解できる。

そのような実態をどのように授業改善すれば、第二の学校に通ってる子ども達にも、やる気と更なる前向きに、みんなのために力を発揮させられるか次のような実践例等を通して考えてみたい。

児童・生徒が、積極的な学習指向・多様な考え方・見方ができる教師の支援活動

児童・生徒がやる気を出さない或いは学級崩壊、授業崩壊が起きている子ども達をよく観察してみると、勉強して何の役に立つのだろうかと思っている。特に小学校の場合は、中学校・高校のように高校・大学の入学試験があるわけでもないので勉強の切実感がない。小学生で受験を考えている場合はほぼ第二の学校に通い勉強をしている。そのような子どもは学校の勉強より第二の学校を優先して、学校の勉強にはあまり関心を示さないようである。児童・生徒にしてみればそれが本音であろう。

しかし、教師としては悲しい現実であるが、そのような児童生徒であっても、第二の学校も楽しいが、学校の授業も楽しいと感じてもらいたいと考えている。

ではどのようなことをすれば授業

が楽しいと思ってくれるのだろうか。それは一人ひとりの児童・生徒が授業に参加していることである。参加しているとは、自分が周りに認めてもらっていることを実感することではないだろうか。友達でも教師でも、親でもいいと考えている。いわゆる社会的承認を本人が感じていることである。

では教師はどのように一人ひとりの児童・生徒に接するといいのだろうか。難しそうであるが取り組んで見ると意外と簡単で授業が楽しくなる。

学級には記憶力の優れた子、思いつきを発表する子、分からないと素直に言ってくれる子、疑問を素直に言ってくれる子、食いつきはいいが持続しない子など多様な子が混じっている。その子ども達を45分～50分授業で全員に満足させることは物理的に不可能であるが、授業の組み立て方で可能であろう。と言うと先生方から聞こえてくる声は「そのようなことをしていると受験（テスト）に間に合わないよ」といわれる。毎時間話し合いとかディベートの授業をするというものではない。その単元の指導の中で一時間ぐらい感じたことをみんなの中で話し合ったり感想を言い合ったりすることは可能だろうと考える。そのときの教師の立ち位置は、聞き役にまわり、うなずいたり、あいづち、または発展させるために疑問の言葉をかけるだけでいいと思う。児童、生徒の側からすれば、先生が自分の意見や見方・考え方に興味関心を示してくれていると感じる。そのことがやる気を出したり、この授業に参加して良かった、次の授業の時にも頑張るぞといった感情を沸き起こさせるのである。

授業中にできなければ、ノート提出、テスト（含む小テスト）などにも、児童・生徒の書ている内容についていてコメント、時間があれば授業中の発言、友達とのやりとり、授業中の態度（心がまえ）等でいい面を探してコメントを書くことによって児童・生徒は大きく変容するであろう。

教師のコメントは児童・生徒にとってみれば先生との会話である。先生と会話ができ、自分では不出来と思っていても、先生のプラス思考でのコメントで、クラスでの立ち位置が明確になり努力を惜しまない児童・生徒に変容していくだろう。

かつてアメリカで中学校の授業参観をさせてもらったとき感じたことは、みんなが発言していて、教師はひたすら聞き役にまわり、コーディネーターに徹していた。ほぼ全員の生徒が意見交流があったり、意見の言い合いがあったりで授業が終わったとき、生徒は満足そうな表情でした。

せめて単元展開の中で一時間ぐらいどんな能力の持ち主であっても、気付いたこと、疑問に思ったことなどが、自由に友達と話ができ交流ができれば、社会的知性といわれる、社会性・協調性などの対人能力、即ちコミニケーション力が育つと言われている。また自分の感情、或いは人の感情を理解しながら周囲と良好な関係を築くともいわれている。

自己肯定感を育てることが学力を育てる

児童生徒が主体的に学習をしたり、何事にも積極的になったり失敗しても再起能力がある状態にすることが教師の働きかけが大きく影響すると思うのは私一人ではないだろう。

ここで自己肯定感とは何かというと、簡単に言えば、自分に自信を持っているということである。ここでいう自信は、文字通り「自分を信じる」、「どんな自分も受け入れている」という意味の自信である。同じ自信でも何でもうまくできると思い込むような、いわゆる自信過剰の自信ではない。

新しいことに挑戦するとき、多くの人は「うまくいくだろうか」と不安がよぎる。それは当然なことである。そのとき「自己肯定感」「自尊感情」の育っていない児童、生徒は発表したり、意見交換がうまくできないで黙って聞いているだけである。自己否定をしてしまうのである。

「うまく言えるだろうか？　間違ったら笑われるのでないだろうか？　失敗したらどうしよう・・・」「最後まで言えなかったらどうしよう、心配でたまらない」これを見ると自分で自分のことを否定している。これでは実力の半分も発揮できていない。

これでは成果を上げることができない。反対に「自己肯定感」の高い子どもは、もしダメでもなんとかなると思えるもので、「やってみよう！　うまくいくかもしれない」「うまくいかなくても、また挑戦すればいい、思い切ってやってみよう」特に理由が無くても、ポジティブなイメージを持つことで１００％か、それ以上のパフォーマンスが発揮できる。

自己肯定感を高めるためには、子

どもの発言・ノートに教師のコメントを書くことで効果がでる。毎時間のノートを提出してもらい、プラス面を探し短文でいいから書くと1～2週間で効果が現れる。高学年から中学生であれば黒板を写すだけではダメで自分の考えを書かせ、そこを中心にコメントを入れると一層効果がある。また、テスト用紙の余白の所に、その子の授業態度や問題の解答に対して、プラスコメント書くことで児童・生徒は次の学習に頑張る意気込みが湧いてくる。

文字のキレイさや文字の勇ましさ、文章内容の凄さなどその子どもの特性をくすぐるようなコメントの効果は高い。

例えば、小学生であると、教師も読みづらい文字でも「元気がある文字ですね。先生はパワーをもらいました」などを書くことで、次からはきれいに書くようになる。「今日の君の発言で皆んなが考えたね、又発言してね」「素晴らしい君の文章を読んで、先生が勉強ができましたありがとう」或い「君の疑問で今日の理科問題が実験して解決できたね。又問題を発表してね期待しています」兎に角すべてをプラス思考で児童・生徒を観察する。負の面には目をつぶることを心がけることで子どもは教師の期待する「主体的・対話的で深い学び」の能力を身につけることだろう。

令和四年度　六〇回大会
日本教師会全国研究大会

日時　令和四年八月六日（土）
　　八月七日（日）
場所　神戸市ホテル北野プラザ

一日目
＊研究主題
「学びに向かう・人間性をどのように身につけさせるのか」
記念講演
「日本の伝統と歴史をどのように教育に生かすか」…平山　弘氏
実践発表
小学校・依田善裕教頭　教科指導
中学校・柳川瀬輝先生　道徳教育

二日目
特別講演・「皆様の『生命の力』の倍増を！」元防衛隊幕僚長　福山　隆氏
実践発表・高等学校（依頼交渉中）
特別実践発表・松橋慎吾先生（岐阜）

自然探訪

中曽　邦輔

私は健康維持・増進のためにと言うことで若いときから野山を歩いたり観察に出かけたりしています。それは小学校の生活科・理科・総合学習の授業に役立つためもあり、写真を撮ったりして楽しんでいます。さらには物忘れ防止にも役立ちます。

そのときにいろいろな植物関係の書物を読むこともあり、野山や道ばたを歩いても結構、疑問や不思議が解決できたり新たな疑問や不思議が見つかり、出かけることが大変楽しみになります。

皆さんのよく知っている、畑や道端によく生えるカヤツリグサの名前は、「蚊帳吊り草」という意味です。蚊帳というのは、蚊が入ってくるのを防ぐために、部屋の四方に吊した箱状の網です。ジブリ映画の「となりのトトロ」で蚊帳を吊って寝るシーンを見た人もいるかもしれません。

どうして、この草はカヤツリグサというのでしょうか？　どんなにカヤツリグサを眺めてもその答えはわかりません。

カヤツリグサを使った子ども達の遊びがあります。カヤツリグサの茎は三角形をしています。

この茎の両端を二人で持って、それぞれ別の面を引き裂いていくと、茎は切れずに広がって四角形ができるのです。空間図形の魔法を見ているような不思議さです。この四角形が蚊帳を張ったような形に見えるのは、蚊帳吊り草のいわれなのです。

この遊びはテレビゲームのように一人ではできません。更に、二人で息を合わせないと、途中で切れてしまいます。そのためカヤツリグサは別名「仲良し草」といいます。生活科で使える素敵な教材です。

また、別の草で「タンポポ」があります。これには諸説あります。最も有力な説はタンポポンという鼓の音に由来するといわれています。しかし、タンポポと鼓の音とで、いったいどのような関係があるのでしょうか。

タンポポの茎の両端を切って切口に切れ込みを入れて水につけると、切れ込みが丸く反り返ります。

昔の子ども達は、それに軸を通して風車や水車を作って遊びました。

実はタンポポの茎の両端が反り返ったこの水車の形が鼓に似ていることから「タンポンポン」と子ども達の間で呼ばれるようになり、やがてタ

ンポポになったとされています。

教育春秋

赤司　久明

サッカー部の顧問を三十年やった。八十歳になったこの頃、昔の顧問連中と会うと必ず「練習で誰も死なくて良かったな」と言い、そして「運が良かったな」、「そう、お互いに」と言い交わす。運ではないんだ！本当は皆それを知っている。

今でも忘れられないのは兵庫県の冬はスキー場での夏の合宿をした時のことだ。もう一人の十歳程度上の顧問が、着いてすぐ「これは！」と言う。私も着替えてグランドに出て驚いた。グランドの地形がいうなら鍋の底なのだ。夏の強い日差し下、風が全くない。温度計をグランドに置くと五十度！生徒も一緒に動く私も、すぐに気力だけでやっている感じになった。するとベテランの顧問が「五十分たったから休憩！」と言う。部員達はよろめきながら、水道の所に行き頭から水をかぶる。カルピス水を一口。「十分経った！始めるぞ！」のベテランの顧問の声に生徒達は「オー」とやけくその声でわめいてグランドに走り出る。五十分程経つと「午前中これでお終わり！」の声に生徒達は「昼からここで三時間か！」とうめきながら昼食によろよろと引き上げる。かくしてこのブランドで一週間頑張り抜いて、皆すっかりたくましくなって無事に帰った。

次の日に、新聞を見て私はあっと驚いた。「合宿練習で二人死亡！」の大見出し。私たちと入れ替わりに入った全国的に著名な高校のラグビー部員が倒れたとある。読むと、午前十時に練習を始めて午前十一時半に三人倒れて、そのうち二人が熱中症で死亡と、休みなしで九十分動いたところで部員が倒れた。

熱意があっても顧問に教育（仕方）がないと生徒が死ぬのだ。私のチームは県代表から、なんと！全国のベスト８位に迄行ったのだ。あり得ないスタミナを武器にして。

それから三十年サッカー部の顧問をやって、猛練習で五度県代表したが、大怪我だけは一度も出さなかった。

ＯＢとは今でも親しい。

協賛校名一覧

21世紀は私学の教育力で

淀之水学院昇陽高等学校	東大阪大学敬愛高等学校	興國高等学校	履正社高等学校	大阪暁光高等学校	天満学園太成学院大学高等学校

早稲田摂陵中学校・高等学校	清風中学校・高等学校	清風南海中学校・高等学校	四天王寺中学校・高等学校	香ケ丘リベルテ高等学校	Ｐ・ＫＩＤＳスクール